

文学館だより

平成28年12月 1日
若山牧水記念文学館
TEL 68-9511
文責 日高

よ こ た つ ひ よ り
朝起きてまづ凭る炬燵ほどほどにぬくもりをりて今朝も日和ぞ
「黒松」 収録

歌の背景

大正12年10月28日から11月13日にかけて、ハヶ岳～佐久市～秩父を旅した時に詠まれた歌（「木枯紀行」）。

山ならではの寒い朝には炬燵のぬくもりは嬉しいもの。同様に旅の天気も良さそうでそれらが相まって牧水に元気を与えてくれるのだった。

伊藤一彦短歌実作講座最終回

11月16日（水）

柿の木に柿の実はなくひょうたんの形のカボチャ夕日に映えおり
持つ病い違えば違う「休め」して話はずめる村の日だまり
青い瞳の金髪男女に道案内通じぬ英語相手は独逸

伊藤館長の短歌実作講座が今年度最終回を迎えました。
講座生が自分なりの読みとりを発表し合ったり質問したり、時には笑いがこぼれたり、毎回、活発な意見が交わされました。上記の短歌は今回最終回に寄せられた短歌のうちの一部です。

講座のながれ

講座生は事前に短歌を作り、文学館に送る

送られてきた短歌を一覧にして文学館から講座生へ匿名にして返送
講座生は事前に鑑賞

実作講座当日

一人が一首を批評し、続いて意見、感想を出し合う
最後に伊藤館長から添削指導を受ける（二首目以降くりかえし）

終了後、氏名入り短歌一覧を受け取る
（一首ずつ作者から短歌の思いを発表する時もある）

詠み手のさまざまな思い、文法、技法等々、教わることの多い一年でした。
私も一首詠める日がいつか来るのでしょうか・・・



これまでの講座で詠まれた短歌です。一部ですが紹介します。

同窓と椎茸のコマ打ち興ず桜のつばみ初見えの日に

自衛隊に入ったはずの教え子のいまマイクもち華儀を仕切る

立石寺一段登れば一段の高さの秋があとつけてくる

来年度も講座生を募集します。
関心のある方、一緒に歌詠みに参加されませんか。

みごと！ 水墨画展

11月10日（木）～30日（水）



東郷町冠山会会員のみなさまのご協力により、水墨画展を開催しました。今年は牧水に関連する7作品も加わり、お客さまも足を止めて見入っておられました。

冠山会会員のみなさま
作品のご提供ありがとうございました

山田 典生様（坪谷）	中森美智代様（鶴野内）
山本 勢子様（坪谷）	田中 文子様（坪谷）
清水 勇子様（羽坂）	矢野 文子様（仲深）
日吉アキ子様（羽坂）	日高 靖子様（坪谷）



坪谷中歌碑 山本勢子



銅像 清水勇子



牧水橋と河川ブール 山田典生



銅像 中森美智代



生家 日高靖子



旧牧水記念館 山田典生



牧水像 田中文子

第6回 青の國短歌大会大賞決まる

今年で第6回を迎えた青の國短歌大会。表彰式が今月 18 日（日）日向市中央公民館で行われます。一般の部は今年も全国からご応募いただきました。詳細は文学館ホームページでご覧いただけます。わからん！とおっしゃる方は文学館までお尋ねください。

ここでは大賞と坪谷小学校の受賞者を紹介します。

【大 賞】

ひゅうがかほちゃ
いつの日か白雪姫の馬車になる日向南瓜の夢の告白

鹿児島県 福田三四五

【小学生の部 佳作】

あおばずくふさふさ子どもかわいいなことしは5ひきおやこでならぶ

坪谷小2年 那須陵太郎

アオバズク一羽が五羽に増えたんだこっちをギロリにらんでいるよ

坪谷小5年 上田 修三

12月企画展のお知らせ

12月3日（土）～2月12日（日）

『^{したうら}下浦時代の喜志子の歌展』を開催します。大正4年療養のため三浦半島北下浦に転居してからの喜志子にスポットをあてます。ご来館お待ちしております。